一瞬の夕映えの中に

周郷博

空高く
翔び去って行く
金色にかがやく
渡り鳥を見た
公害に傷いた
大地の
雨雲の去った
初秋の夕べだった

一瞬の夕映えは
消えて
琥珀と黄金の色は
たちまち
紫と薄鉛色に変って
もう　空の鳥も
黒い点のように
ちぢんだが
ぼくは
ぼくは迫ってくる闇の中で
大地の心を
知ったように思った

周郷博詩集－失われた季節を求めて－より（国土社発行）

